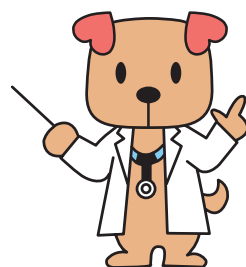


こども相談室

気管支炎と喘息の違いについて

千葉県小児科医会 すずき しゅういち 鈴木 修一 医師



Q1 気管支炎とはどんな病気？

気管支炎は多くの場合、感染により気管支に炎症がおこるものです。発熱、鼻水、咳などのかぜ症状より始まり、痰がらみや咳き込みを伴うのが典型的な経過です。通常は2週間程度で軽快してきます。原因のほとんどはウイルスであり抗菌薬は必要ありません。ただし、症状が強い時や咳が長引く時は細菌感染を疑う必要があります。

Q2 喘息とはどんな病気？

喘息は「気管支喘息」ともいわれるように、慢性的な炎症が気道に起こる気管支の病気です。アレルギー体質の方に多く、発作的に気管支が狭くなり呼吸のたびにゼイゼイ・ヒューヒューという音がして、息苦しくなるのが典型的な症状です。

Q3 気管支炎と喘息の違いは？

喘息発作の症状がない時にも気管支に炎症が残っているのが、「喘息」です。

喘息発作は、かぜ症状から始まり気管支炎の症状とともにゼイゼイ・ヒューヒューとすることが多く、気管支炎と喘息の区別が難しい時があります。特に2歳未満ではまだ気管支が細いため痰が絡むとゼイゼイと音がしやすく、医師にも判断が難しいです。また、軽い喘息や咳が主症状の喘息ではゼイゼイがはっきりと聴こえない場合があります。それでも夜眠れないなど症状が強い時や、2週間以上咳が続く時には喘息ということがありますの

で、受診しましょう。

気管支を広げる薬により、症状がよくなるかが喘息発作を診断する一つの目安です。

Q4 「気管支炎」や「喘息の発作」は予防できるの？

気管支炎の予防は、かぜ予防と同じくバランスのよい食事と十分な睡眠により、よい免疫状態を保つことが基本です。手洗いやうがい習慣とし、受動喫煙や汚れた空気を避けること、かぜの流行時にはマスクをつけることが大切です。気管支炎の原因となる病原体は多く、ワクチンでは予防しきれませんが、できる限り接種しておきましょう。

喘息の発作予防については、気管支炎の予防に加えて、普段から薬を内服・吸入し、気管支の炎症を低いレベルに保つことが基本となります。薬の種類や量は、症状の頻度や程度により変わります。適切な治療であれば、走ると咳が出るなどの症状もなく通常の生活が送れます。

かかりつけの先生と相談し治療しましょう。

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

PM7:00~PM10:00の毎日

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939